



医学部だより

第38号

2019.4.1



ようこそ徳島大学医学部へ ～学者如登山～

医学部長 赤池 雅史

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。受験生活を乗り越えて、医療人への第一歩を踏み出し、喜びと期待に満ち溢れていることでしょう。これから皆さんが本学で学ぶにあたり、医学部の歴史について知っておいて欲しいと思います。

徳島における医育機関の歴史は古く、高名な蘭方医である関寛斎の功績により、1870年に設立された徳島藩立医学校に端を発します。その廃校の後、多くの関係者の努力により徳島県立医学校（1880年～1886年）が開校されましたが、自主的経営が困難と判断され廃校となり、四国に医育機関の無い時代が数十年続きました。太平洋戦争で医師の需要が増した際に、地域の熱意と関係者の多大なご尽力により、1943年に前身の県立徳島医学専門学校が開校され、1945年4月には官立の徳島医学専門学校となりました。同年7月4日の空襲により附属病院は一夜にして灰塵と化し、廃校の危機を迎えながらも、初代校長の中田篤郎先生をはじめ教職員、学生、県の熱意と努力により、1946年に蔵本町の旧陸軍兵舎（現在の蔵本キャンパス）に移転して存続することができました。そして、1948年2月に徳島医科大学へ昇格し、さらに、1949年5月には四国唯一の国立大学医学部となり、中田篤郎先生が初代医学部長と学長に就任されました。現在では、医学科、医科栄養学科、保健学科の3学科と、関係する大学院として医科学、栄養生命科学、保健科学の3つの教育部を有するまで発展しています。さらに、医学部のある蔵本キャンパスには、現在、薬学部、歯学部、先端酵素学研究所、徳島大学病院等が設置され、全国に類を見ない生命科学・医療系の教育・研究の一大拠点を形成しています。このような歴史を踏まえ、徳島大学医学部は、設立当初より地域から

の要望に応えながら、徳島県のみならず四国地区の地域医療を支える人材を輩出するとともに、高度な医療と世界に発信できる医学研究を実践する使命を有しています。皆さんはこのような教育環境で学ぶ誇りと使命感を持って、日々の学修に励んでほしいと思います。

医療人は、医学というサイエンスを目の前の患者さんに適応・実施することが求められます。患者さんは多くの疾患や複雑な病態を抱える存在であり、その社会的背景や生活状況は様々で、さらに、各自が異なる価値観や人生観を持っています。医療の現場では、単に教科書から学んだ知識を丸暗記して、マニュアルの対応を行う方法は通用せず、複雑・複合的な存在である患者さんに対峙して、課題を発見し、その解決方法を見出していく探究力が必要です。また、医療の実践においては、患者さんや他の医療者との良好なコミュニケーション力が必須です。さらに、医学・医療の発展のために研究力を養うことも必要です。医学科、医科栄養学科、保健学科では、アクティブ・ラーニング、海外留学プログラム、研究室配属、診療現場教育等を積極的に取り入れた特徴のあるカリキュラムを構築しており、皆さんを優れた医療人へと育てていきます。学生の皆さんは、決して与えられるものを受動的に受け入れるのではなく、自らが学ぶ姿勢を持って学修に臨んでください。

そして、ぜひ、附属図書館蔵本分館の前庭にある中田篤郎先生の碑の前に立ってみてください。その碑には「学者如登山」の書が刻まれています。これは学べば学ほど山に登るように視野・見識が広がっていくことを意味する言葉であり、徳島大学医学部の設置以来、その教育の基本的姿勢を示しています。皆さんが学ぶ喜びを感じながら、優れた医療人へと成長していく姿を楽しみにしています。

目次

CONTENTS

巻頭言	1	海外留学体験記	9
新入生の皆様へ	2	学遊抄	10
先輩から医学部紹介	4	新任准教授紹介	10
学友会活動	5	退職者ご挨拶	10
医学部行事予定	5	数字で見る医学部	12
医学教育分野別認証評価審査報告	6	白衣授与・Student Doctor 認定証授与式	13
徳島医学会報告	7	受賞者紹介（教員）	13
第65回徳島大学解剖体慰霊祭	7	受賞者紹介（学生）	14
蔵本祭	8	編集後記	14



医学科新入生の皆様へ

医学科長 橋本 一郎

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。皆様は難関の受験を突破して、晴れて徳島大学医学部医学科の学生として学生生活を始める事になりました。これから始まる生活に対して、

大きな喜びや期待と少しの不安があるかもしれません。入学後の学習と生活について少し紹介します。

入学直後から医学に触れたい学生は、研究サークル活動であるLab部で基礎医学研究が可能です。その後の研究室配属では好きな研究室を選んで医学研究を行うことができます。またMD-PhDコースに進学すると卒業前に医学博士を取得することができます。臨床医学に進むと、症例シナリオを使用して自

己決定型学習を行うPBLチュートリアルが用意されており、これ乗り越えると自己学習能力が非常に伸びます。また、米国テキサス大学、ドイツ・ハノーバー医科大学、韓国ソウル国立大学校などへ在学中に留学することができます。

一生を医学に関与して過ごす皆様にとって、医学学習は基本として最も大切なことですが、大学時代は人間性を形成する大切な時期でもあります。好きな運動や趣味などを集中して行うことは、医師になったすぐ後では難しいかもしれません。学生の間に、クラブ活動やサークル活動で身体を鍛えたり、英会話などを習ったり、趣味を深める、また新しいことに挑戦するのも良いでしょう。無限の可能性を秘めた新入生の皆様が過ごす6年間は、有意義であることを心から願っております。



医科栄養学科新入生の皆様へ

医科栄養学科長 酒井 徹

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。少しでも皆様との繋がりを持つために、センター試験実施日の1月19日に原稿を書いています。この医学部だよりを目にした時、センター試験でがんばっていた自分の姿を思い出すのではないのでしょうか。

私が、徳島大学の栄養学科に入学したのは、今から35年ほど前のことです。長野県から初めて四国の地に踏み入れ、強い風とあまりに女子学生が多いことに驚いた記憶があります。当初はいろいろ不安な要素が多々ありましたが、時間と共に不安的要素は次第に楽しいことへ変化してきました。自分に与えられた時間を、どんなことに費やすのか自由に変更ができるのが大学生の特権かもしれません。

社会で問題となっていることは多くありますが、その一つと

して少子高齢化が挙げられます。私の学生時代から現在まで長い月日が経っていると皆さんは想像するかもしれませんが、IT関連は別として生活は大して変化していません。大きく変化したもの、それは65歳以上の高齢者の割合です。現在は26%ほどですが、私の学生時代はその半分でした。少子高齢化が進むと必然的に医療費が高騰します。お金を負担する生産人口の割合は増えるわけではないので、当然負担は重くなります。すると障害がない状態で生きられる“健康寿命”の延伸が社会的な大きな課題となります。“健康寿命”の延伸には、栄養が密接に関係します。私が学生だった頃、薬学部の友達から、「これから栄養は大切になる」と言われたことがあります。日常的で身近なものが大事であることを示しています。皆さんは、これから学修する栄養学を通じて社会貢献ができるよう4年間勉学に勤しんでください。



保健学科新入生の皆様へ

保健学科長 安井 敏之

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。保健学科の教員ならびに在校生一同、ご入学を心より歓迎いたします。高校生活とは

異なり、これからは医療人としての自分の将来像を描きながら学習していくこととなります。今は、おそらく、期待と不安が入り交じった気持ちでしょう。

蔵本キャンパスには、医学部、歯学部、薬学部と医療系の3学部が集まっています。医学部には医学科、医科栄養学科、保健学科の3学科があり、保健学科には、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の3専攻があります。将来、医療系の様々な分野で活躍したい学生さんが蔵本キャンパスに集まっています。勉強だ

けではなく、サークルなどを通していろんな学部、学科、専攻の学生さんと触れ合う機会を持ち、お互いの考えを聞き、チーム医療の基本を学んでください。皆さんが講義を受ける場所は大学病院の隣に位置し、実習も大学病院が中心になります。医療について臨場感あふれる場所での学習は良い刺激となり、モチベーションにもつながるでしょう。また、国際交流を高めることができるように、米国、フィンランド、フィリピンなどと協定を結んでおり、国際的な点からも刺激を受けることができます。日本と異なった文化を知ることはこれからの国際社会に向けて重要なことだと思います。眉山が見えるこの学び舎で、ぜひ、いろんなチャンスを生かして充実した大学生活を送られることを心より期待しています。

新入生の皆さんへ

医学科4年次 今田友理香



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。今みなさんの周りには、年齢も、育った環境も異なる学生がそれぞれの思いを持って全国から集まっています。自分にはない考え方や価値観があり、それらを共有できるのが大学の大きな魅力です。ぜひいろいろな人とたくさん議論し、たくさんのか

を感じて、考えてみてください。

また、大学生活では、みなさんに多くのチャンスが広げられており、それと同時に自分で決断しなければならない場面がたくさんあります。例えば、一般教養はどの授業を受けるのか、研究室はどこを選んで何をしたいか、留学をするかなど、大学生活を左右する選択もあります。これまでとは違って、やる気があればどこまででもできるし、やる気がなければやらなくていいこともあります。その中で自分がいつ何をすべきか、何を優先すべきか、選ぶ力を身に付けてほしいと思います。

みなさんがこれから一番気になるのは勉強についてだと思います。医学部の授業にはたくさんの科目があり、全て勉強するのは大変なことです。しかし、どの科目も、人体の中で実際に起こっていることについて着眼点・切り口を変えて話しているだけだと私は考えます。授業で学ぶことは全て繋がっていて、どれも大事だと言うことを、学年を重ね、勉強を重ねるにつれて感じるようになりました。そのことを一年生のうちから意識すれば、勉強がもっと面白くなるのではないのでしょうか。入学時に抱いた志を忘れずに、これから勉学に励んでほしいと思います。

医科栄養学科4年次 近藤 空良



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長くて厳しい大学受験お疲れ様でした。そんな受験が終わった矢先に新生活が始まり、不安や期待で落ち着かないことと思います。しかし、これから

出会う仲間や先輩、先生方には様々な個性があり、新入生の皆さんの不安を解消してくれたり、もしかしたら一生付き合う人になるかもしれません。なので出会いを大切にしてくださいね。

そんな皆さんに私から伝えたいことは、「やりたいことはなんでもやる」ということです。大学生活はかなりの自由があります。アルバイトをしてお金を貯めたり、部活や趣味に時間を割いたり、はたまた旅行や留学で色々な場所や人を知ったり、様々なことが有意に実践できる時間があります。社会人になると、これほどの自由がある期間がほとんどありません。また、医療系（蔵本キャンパス生のほとんど）は国家試験を受けるため、学年が上がるにつれて、忙しくなっていきます。私は今でもやりたいことがたくさんあります。大学生活ではやりきれないほどたくさんのか

に興味を持っているにも関わらず、大学生活が進むにつれて忙しくなっていく、なかなかできる機会がありません。なので、やりたいと思ったことは、このチャンスを見逃さず、早い内に惜しまずやってください。これからたくさんのか

保健学科看護学専攻4年次 宮本 亜耶



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に向け、大きな期待や不安があることと思います。特に看護学専攻は実習が多く、3年生には本格的な病棟実習があり、とて

も不安なことだと思います。とても忙しい毎日ですが、その中でもアルバイトや部活、旅行など、大学生の時にしかできない楽しみがたくさんあります。また、たくさんのか

保健学科放射線技術科学専攻4年次 永安結花里



新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。厳しい大学入試を乗り越えられてお疲れ様でした。本専攻では診療放射線技師の資格取得のための専門教育を受けるだけでなく、3年次の後半に研

究室配属が行われ、先生と大学院生の方と一緒に専門的な研究活動をすることができます。とても期待で胸がいっぱいだと思いますので、そのモチベーションを生かして沢山勉強していきましょう。また高校生のときよりも自由を得られます。趣味に興じたり他大学と交流したりと心ゆくまでいろんなことに挑戦して、人間としての成長にも繋げてみるのも良いと思います。これからの4年間、素敵なものにしてくださいね。

保健学科検査技術科学専攻4年次 蔵根 理貴



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学受験を乗り越え、これから送る大学生活に期待や不安など様々な思いを抱えていることでしょう。大学では高校に比べてさらに自主性が必要となります。部活やアルバイト、娯楽にどれだけ時間を費やしても咎められることはありません。しかし、進級するためには期末試験に合格しなければなりません。最後には国家試験も待ち受けています。さらに学年が上がるにつれて忙しくなり、学ぶ内容も次第に難しくなっていきます。誰にも言われないからと遊んでばかりいけば、いずれ後悔することとなるでしょう。新入生の皆さんが夢と希望に満ちた幸せな大学生活を送られることを切に願っております。



先輩から医学部紹介

🌸🌸🌸 新入生のみなさんご入学おめでとうございます 🌸🌸🌸

講義について

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる新しい大学生活に、胸が高鳴っていることと思います。ここでは皆さんに、大学1年生では、どのようなことを学んでいくのかについて、少しご紹介させていただきます。

まず大学では、自分で時間割を組み立てるという点が、高校までの授業とは大きく異なります。特に1年生では、教養教育科目を受講するため、自分に合った講義を選択し有意義な時間割にすることができます。ここでは、いわゆる一般教養科目群に加え、他にも基礎基盤教育科目群で数学や、物理・化学・生物を勉強したり、ウェルネス総合演習でテニスなどのスポーツをしたりします。さらに、英語や中国語、仏語、独語のような外国語も学ぶことができます。1年生の皆さんは、これらの教養教育科目を主に常三島キャンパスで週3～4回受講し、学科別の専門科目を蔵本キャンパスで週1～2回受講します。専門科目では、講義や実習などを通して、2年次以降に学ぶ専門内容の基礎を学びます。私は、1年生は2年次以降では受講できない教養教育として幅広い内容を学べた一方、専門科目の基礎固めも行えたことが、今の学習に

医学科4年次 久保 萌加

もつながっていると思います。

将来、皆さんは医療系分野に進まれると思いますので、講義以外にもいろいろな経験を積んでおくことが大切です。是非、在学中にしかできないことにチャレンジして、充実したキャンパスライフを送ってください。



部活動・サークル活動について

医科栄養学科4年次 曲田 吉美

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私からは部活動・サークル活動について紹介します。徳島大学には数多くの部活動・サークル活動があり、蔵本キャンパスの学生が常三島キャンパスの部活動・サークル活動に入ることも可能となっています。そのため、部活動・サークル活動に所属することによって様々な学科の人と交流を深めることができます。活動時間についてもそれぞれの部活動・サークル活動によって様々です。どの部活動・サークル活動に入ろうか悩んでいるという人は、まずは自分が興味を持った部活動・サークル活動にどんどん見学に行ってみましょう。部活動・サークル活動の多くは、4月を新歓期としてお花見やバーベキュー等のイベントを開催しており、部活動・サークル活動

の雰囲気や活動時間等、新入生の皆さんが気になっていることを先輩に聴くことができる場となっています。実際に部活動・サークル活動の様子を見学に行くこともできます。気になる部活、サークル活動に積極的に見学に行き、自分に合った部活動・サークル活動を選んでください。大学生活の中で部活動・サークル活動に入り、たくさんの人と交流し、一緒に体験することで、自分とは違う人の考え方や、他の学科がどんなことを学んでいるのかを知ることができますし、自分の考え方や視野をもっと広げることができるのではないのでしょうか。皆さんが楽しい大学生活を送ることができるよう願っています。



大学生協について

保健学科検査技術科学専攻 4年次 三橋 英

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの大学生活をより充実させる場所である生協について紹介させていただきます。蔵本キャンパスには食堂の「SAKU-LA(さくら)」、コンビニの「LUCK-LA(らくら)」、教科書や参考書、文房具などを取り扱っている「SHOKO-LA(しょこら)」、カフェテリアの「KURA-LA(くらら)」があります。

「さくら」は、お昼になるとたくさんの学生や先生方が利用しています。昼だけでなく朝は7時50分から、夜は20時まで営業しているので朝食や部活後にも利用できます。メニューの種類は豊富で毎週変わるため、毎日利用しても飽きずに利用できます。また、季節の旬のものや地域の特産物を使って毎月さまざまなフェアを行っています。選んだ食事の栄養バランスがレシートに表示されているので、食事の栄養バランスを簡単にチェックできます。

「しょこら」は、参考書や実習用品、白衣などを販売しています。また、旅行サービスカウンターがあり、バスチケットの購入もできます。

「らくら」は、お弁当、パン、お菓子、飲料など食品を取り扱っています。挽きたてコーヒーもあるので食後に立ち



寄ってみてください。

「くらら」はフードショップで、お昼はできたてのどんぶりが人気です。隣にある、カフェテリアスペースで食事をとったり、空き時間に勉強をしたり休憩する場所として利用できます。

簡単ではありますが、生協について紹介させていただきました。生協を活用してより良い大学生活を送ってください。

学友会活動

●運動部

クラブ名	助言・指導教員	クラブ名	助言・指導教員
1 水上競技部(男女)	内田 貴之	11 合気道部(男女)	常山 幸一
2 弓道部(男女)	丹黒 章	12 水泳部(男女)	松香 芳三
3 硬式野球部	橋本 一郎	13 硬式庭球部(男女)	高木 康志
4 柔道部	谷 憲治	14 軟式庭球部(男女)	森 健治
5 空手道部(男女)	丹黒 章	15 陸上競技部(男女)	米村 重信
6 卓球部(男女)	香美 祥二	16 準硬式野球部	島田 光生
7 バドミントン部(男女)	西岡 安彦	17 ラグビー部	鶴尾 吉宏
8 サッカー部	高橋 章	18 剣道部(男女)	久保 宜明
9 ゴルフ部(男女)	苛原 稔	19 バレーボール部(男女)	岡久 稔也
10 バスケットボール部(男女)	川人 伸次		

●文化部

クラブ名	助言・指導教員
1 ジャグリングサークル	渡辺 浩良
2 軽音楽部	橋本 一郎
3 茶道部	竹谷 豊
4 地域医療研究会	谷 憲治
5 栄養学研究部	酒井 徹
6 外国語研究会	安倍 正博
7 室内楽同好会	赤池 雅史
8 TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	赤池 雅史
9 先端医療研究会	佐田 政隆
10 IAHS(保健学科国際交流サークル)	LOCSIN ROZZANO DE CASTRO

※入部等のお問合せについては、医学部学務課学生係(☎088-633-7982)へご連絡ください。

医学部行事予定 (2019年4月～2019年9月)

4月1日(月)～5日(金) 医学部新入生オリエンテーション SIH 道場～アクティブ・ラーニング～ (医学科、医科栄養学科、保健学科)	4月6日(土) 医学部新入生研修 (於：大塚講堂ほか)
4月2日(火) 学生定期健康診断 (医学科・医科栄養学科1年次)	4月8日(月) 新入生授業開始 (医学科、医科栄養学科、保健学科)
4月3日(水) 学生定期健康診断 (保健学科1年次)	4月22日(月)～26日(金)、5月13日(月) 学生定期健康診断 (医学科・医科栄養学科・保健学科2年次以上)
4月5日(金) 徳島大学入学式 医学部新入生オリエンテーション (13:30～大塚講堂)	8月3日(土)～ 西日本医科学生総合体育大会 (主管：関西医科大学) 8月上旬 徳島大学オープンキャンパス (学部説明会) 中旬 (医学科 8/9(金)、医科栄養学科 8/7(水)、保健学科 8/20(火))



医学教育分野別認証評価受審報告

医学科長(2018年度) 赤池 雅史

2015年12月に発足した一般社団法人日本医学教育評価機構(Japan Accreditation Council for Medical Education:JACME)が世界医学教育連盟から認証され、2017年度からJACMEによる医学教育分野別評価が正式に開始されました。本学医学科は、2018年10月1～5日の5日間にわたり、自己点検評価報告書に基づいた領域別検討会議、授業・実習や施設見学、学生や教員との面談等で構成される医学教育分野別評価の実地調査を受けました。

医学教育分野別評価は国際基準に基づく医学教育の質保証を目的とし、その基準は、使命と学修成果、教育プログラム、学生の評価、学生、教員、教育資源、プログラム評価、統轄及び管理運営、継続的改良の9領域とその下位の36領域で構成されています。受審にあたり、まず、医学科教授全員が委員となって医学教育分野別評価準備委員会を設置し、2015年までに医学教育改革推進FD・SDを計8回実施して目標を共有した上で、領域別に準備に着手しました。医学部の使命については、1949年5月に四国唯一の国立大学医学部となった際に、「医学に関する学術の中心として広く知識を授けるとともに専門の知識及び技能を教授研究し、知的道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」と定められ、現在の医学科の教育研究上の目的と繋がっていることを確認しました。学修成果としては、2016年12月に卒業時コンピテンス・コンピテンシー（学生が卒業時点で身につけておくべき能力・資質）の策定を行いました。さらに、1年次早期臨床体験実習の開始（2015年度～）、1年次医療倫理・行動科学教育の開始（2016年度～）、四国等の関連病院での学外実習開始による診療参加型臨床実習の週数増加（2018年度）等のカリキュラム再編とともに、学生を正式の委員として加えた教育プログラム評価委員会とカリキュラム専門委員会の設置や教学IR（教育プログラム評価の根拠データの収集・分析）等の改革が進められました（2017年度～）。これ



らと並行して、評価基準ごとに根拠情報を収集し、それに基づいた現状分析と自己評価、現状への対応と改善に向けた将来計画を策定していきました。自己点検評価報告書作成が佳境となった2018年2～6月には委員による対面討議だけでも計156時間に及び、最終的に計285の資料、計75の規則集、計30の関連冊子からなる膨大な根拠資料と280ページにわたる自己点検評価報告書が作成されました。

このような自己点検評価作業を経て実地調査をうけることで、医学部の75年の歴史を振り返り、徳島・四国における医療への貢献と研究成果の世界への発信という使命と強みをあらためて認識できたと思います。一方、今後取り組むべき課題として、学修成果基盤型教育への完全移行、教学IR機能の強化、水平統合・垂直統合を含めた教養教育と基礎医学教育の改革、行動科学・医療倫理学教育の体系化、社会医学・プライマリケア・地域医療実習の充実、重要な診療科での診療参加型臨床実習の充実等が明確化されました。今後、日本医学教育評価機構から評価基準に適合していることが認定されれば、次の受審は7年後の2025年度になります。今回は評価報告書に示される「改善のための助言」に対して7年間かけて教育改革をどのように進めたかが審査されるため、早急に改革に着手する必要があります。そしてそれは、単に審査のためではなく、本学医学科がその使命を果たすための真の教育改革に繋がるものでなければなりません。

今回の受審にあたりましては、自己点検評価報告書の作成から実地調査に至るまで、学生、研修医、医員、教員、事務職員、関連病院の皆様にご多大なご協力とご尽力をいただきました。最後になりましたが、この場をお借りして心から御礼を申し上げます。

今回の受審にあたりましては、自己点検評価報告書の作成から実地調査に至るまで、学生、研修医、医員、教員、事務職員、関連病院の皆様にご多大なご協力とご尽力をいただきました。最後になりましたが、この場をお借りして心から御礼を申し上げます。



徳島医学会報告

■ 第258回徳島医学会学術集会(平成30年度冬期)

臨床食管理学分野 教授 竹谷 豊
血液・内分泌代謝内科学分野 教授 安倍 正博

第258回徳島医学会学術集会は、平成31年2月3日(日)に徳島大学大塚講堂で開催された。今回の大学側の担当は、臨床食管理学分野：竹谷豊教授と血液・内分泌代謝内科学分野：安倍正博教授が務めた。参加者は196名(一般41名を含む)であった。

竹谷教授の開会挨拶に続いて、第1会場(大ホール)にて3名の教授就任記念講演が行われた。最初に、生体機能解析学分野：遠藤逸朗教授による「臨床医の内分泌代謝疾患研究：骨カルシウム代謝異常症を中心に」、次に、脳神経科学分野：高木康志教授による「徳島大学脳神経外科の新展開」、最後に、医療情報学分野：廣瀬隼教授による「これからの医療における医療情報学の役割」の講演が行われた。

引き続き、第2会場(大塚講堂1Fおよび2Fロビー)において、総計28演題の一般および若手のポスターセッションを通して研究成果が発表され、質疑・討論が活発に行われた。

午後からは、第1会場において、丹黒章徳島医学会会長と齋藤義郎徳島県医師会会長の挨拶の後、前回に選出された第41回徳島医学会賞および第20回若手奨励賞の授与式が行われた。徳島医学会賞は、天宅あや先生(予防環境栄養学分野)と松本明彦先生(徳島市民病院リハビリテーション科)に、若手奨励賞は、宮上侑子先生(徳島大学病院卒後臨床研修センター)と高橋未奈先生(徳島大学病院卒後臨床研修センター)に授与された。受賞記念講演として、天宅先生による「Campylobacter jejuni 感染細胞における小胞体ストレス応答の役割」、松本先生による「消化器がん患者における入院時の栄養指標が退院時の Barthel Index に及ぼす影響について」の講演が行われた。

公開シンポジウム「健康長寿を目指して」では、超高齢社会を迎えた徳島県において健康長寿を達成するための課題となっている領域について、5名のシンポジストによる講演が行われた。最初に、寝たきりの主

因の1つである骨粗鬆症の予防に関して、津川尚子先生(大阪樟蔭女子大学教授)による「骨粗鬆症予防とビタミンD」の講演が行われた。続いて、宇宙医学・栄養学の研究成果から、廃用性筋萎縮の予防・治療を目指した機能性食品の開発に関して内田貴之先生(徳島大学生体栄養学分野助教)による「宇宙栄養学から健康長寿へ」、運動器の健康維持を目指した予防法に関して加藤真介先生(徳島大学病院リハビリテーション部教授)による「ロコモは寝たきりへの第一歩」、寝たきりの最大の要因である脳卒中や認知症の予防に関して和泉唯信先生(徳島大学病院神経内科特任講師)、徳島県でも大きな健康課題となっている COPD や肺がんの予防に関して後東久嗣先生(徳島大学呼吸器・膠原病内科学分野准教授)による「COPD・肺がんにならないために」が行われた。いずれも、市民の関心の高いテーマで、41名の一般聴講者の参加があった。

最後に、今回のポスターセッションの中から選考された第42回徳島医学会賞と第21回若手奨励賞が、今井義禮徳島県医師会副会長から発表された。徳島医学会賞は、曾我部正弘先生(徳島大学地域総合医療学分野)と鶴尾美穂先生(徳島市医師会)に、若手奨励賞は、志村拓哉先生(徳島大学病院卒後臨床研修センター)と竹内竣亮先生(徳島大学病院卒後臨床研修センター)に決定した。その後、安倍教授が開会挨拶を行い、盛況のうちに閉会した。

本学術集会の開催にあたり、徳島県医師会、徳島医学会事務局、関係スタッフの皆様およびご参加・ご協力いただいた関係の皆様へ、心より感謝申し上げます。



第65回 徳島大学解剖体慰霊祭

蔵本事務部医学部学務課



平成30年10月10日(水)15時から徳島大学大塚講堂において、第65回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者540人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体してくださった方々の亡き御霊6,462柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。

蔵 本 祭

Knock Up the RANGE

第34回蔵本祭実行委員長 医学科5年次 筧 拓 朗

第34回蔵本祭実行委員長を務めさせていただきました、筧拓朗です。平成30年度も、学術講演を含む計4日間に渡って様々なイベントを開催することができました。今回の蔵本祭は、学祭に関わる一人一人が限界に挑戦し、従来の枠にとらわれない活気溢れる蔵本祭にしようという思いを込めて「Knock Up the RANGE」をテーマとして開催しました。昨年に引き続き常三島祭とのコラボ企画や、学生の要望があった先生に学術講演の講師として来ていただくなど、新たな催しも行いました。蔵本祭の準備は簡単ではありませんでしたが、例年に負けないぐらいの蔵本祭を作り上げていこうと実行委員一同頑張りました。

当日は少し天候が崩れることがありましたが、何とか全てのイベントを無事に終えることができました。また、今回は広報活動の時期を工夫したり、チラシを例年より多くの場所に貼らせていただき、より多くの方々に蔵本祭を知っていただくことができたと思います。蔵本祭に携わってみて、本学関係者をはじめ、商

店街やメディアの皆様など沢山の方々に支えられて蔵本祭が成り立っていることを学びました。今秋に予定されている第35回蔵本祭は、徳島大学創立70周年の記念すべき大学祭となります。後輩の皆さんにおかれましても蔵本祭を通じて貴重な経験を得ることができるよう、第35回蔵本祭の成功をお祈りいたします。最後になりましたが、第34回蔵本祭開催に当たりご尽力くださいました皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



栄養学展を終えて

第34回蔵本祭栄養学展委員長 医科栄養学科4年次 山 下 厚 美

栄養学展は蔵本祭で出展する展示の一つで、医科栄養学科の毎年恒例のイベントの一つです。医科栄養学科2、3年生の中から有志を募り、テーマの作成から材料の調達、運営に至るまでほとんど学生のみで実施しています。

平成30年度の栄養学展は「世界の料理」というテーマのもと、ガパオライスを提供させていただきました。世界の料理というカレーやラーメンなどのように日頃から馴染みのあるものもありますが、今回は普段あまり食べることのない料理であるタイのガパオライスを選びました。タイ料理は三大料理の一つで、ガパオとはハーブのことです。そのガパオ



イスを日本人に食べやすいようにアレンジを加え、さらに徳島県の名産であるレンコンを用いることで食感にアクセントを加えました。また今回はパプリカ、ピーマン、玉ねぎなど野菜をたくさん使用し、一食で野菜を140gも摂取できるようにしました。

当日は2日間で整理券200枚すべて完売し、多くの方にご来場いただきました。またアンケートを実施し、学生を始め地域の皆様などからも貴重なご意見、ご感想をいただくことができました。普段学んでいることをこの栄養学展を通して大勢の方にお見せする良い機会になりました。これからも医科栄養学科の名に恥じない活躍ができるように、勉学に励みたいと考えております。

最後に、栄養学展にご来場いただいた皆様、栄養学展委員と実行委員の方々と、ご協力いただいた先生方に心より御礼申し上げます。

模擬病院を終えて

第34回蔵本祭模擬病院委員長 保健学科看護学専攻3年次 金 子 樹 乃

模擬病院は、看護学専攻1、2年生の中で委員を集めて運営しております。毎年、学内だけではなく、学外の方にも多く来訪していただいております。看護学専攻としても力を入れているイベントの一つです。平成30年度の模擬病院では、手浴、身体測定、血圧測定、赤ちゃん抱っこ・妊婦体験に加え、徳島大学の学生たちによる「思春期ピアカウンセラー」のブースも設け、ピアカウンセラーの活動を知ってもらうことを目的に、来てくださった方たちに向けて、説明会やワークショップを行いました。また今年から、子宮頸がんについて知ってもらい、子宮頸がん健診の受診率を向上させるために、子宮頸がんに関するクイズを作成し、来訪していただいた方々に配布し、説明を行いました。夏の暑さが残る中、当日は400名を超える方々に来場していただき感謝しております。来場していただいた方の中には、「勉強になった」「来てよかった」と言ってくださった方もおられて、様々なアドバイスをいただき、来年度以降の模擬病

院をより良いものにできるようなご意見をたくさんいただきました。今回の反省点は来年度の模擬病院に反映させ、今年度よりもたくさんの方に満足していただけるようなものを作り上げていくことができるように努力してまいります。最後になりましたが、模擬病院にご来場いただいた皆様、物品準備や会場設営のために休みにもかかわらず協力してくださった先生方に心より御礼申し上げます。



海外留学体験記



テキサス大学 サマーリサーチ・プログラム

報告

医学科5年次 小林 陽花

6月下旬から2カ月間、世界最大規模のテキサスメディカルセンター内にある、UT Health McGovern Medical Schoolのサマーリサーチプログラムに参加させて頂きました。私はDepartment of Molecular MedicineのVolk教授の下、ある蛋白質について、数ある論文を基に、特徴、病気の診断や治療にどのように使うことができるのかということを考え、レビューを書いたり、DNA アプタマーの研究をしたりしました。また、6人の臨床医の先生の外来や手術、回診なども見学させて頂きました。特に、Texas Children's Hospitalで見た、世界トップレベルの小児心臓外科の手術は圧巻でした。様々な人種が混じりあうアメリカで、多くの人に出会い、感じ、

学ぶことができました。この経験を最大限生かしていきたいです。最後に、この留学においてお世話になりました丹黒医学部長をはじめとする全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



トビタテ！ 留学 JAPAN プログラム ASD (自閉スペクトラム症候群) の最先端を知る

報告

医学科3年次 福本 和生

米国ノースカロライナとカリフォルニアにてASDの最先端を知るべくインターンをしていました。割と自由に動けた二年間で、多くの土地や施設を巡り、その度にアメリカの多様性を肌で感じる事ができました。日本では30年の遅れがあると言われるこの分野ですが、ひょんなことから日本の自閉事情にも触れることができ、おかげで日本もただ遅れているということではなく日本人の特性にあった支援がしっかりと行われていることを知りました。これからはこの経験を活かして元々興味があった“心の理論”を脳科学的見地からも勉強していけたらと思います。

留学する際の煩わしい手続きや留学中のケア等面倒をおかけしました国際課の先生方、勢井教授、この場を借りて御礼申し上げます。



ヘルシンキメトロポリア応用科学大学

報告

保健学科看護学専攻4年次 (平成31年3月卒業)
一宮 由佳・横田 真梨菜

私達はフィンランドのメトロポリア応用科学大学で開催されたセミナーに参加しました。留学期間は8月20日から27日で、アジアプログラムの国際セミナーは8月22日、23日に開催され

ました。メトロポリア応用科学大学と徳島大学の医学部・歯学部との間の学術交流協定に基づき、フィンランド国立教育庁により助成を受け、参加することができました。このセミナーの目的は、高齢化が進む両国における「高齢者ケア」をテーマとした学術交流です。私達は日本の「高齢がん患者に対する補完代替療法」と「地域における認知症高齢者のケア」について英語で発表しました。更に現地の高齢者施設へ見学に行き、現地の看護職の方が利用者として寄り添い、利用者の自立度や宗教的なことを考慮しながら個々にあった生活環境を提供しているなど、福祉国家フィンランドならではの施設の特徴を知ることが出来ました。さらに国境を越えた関わりを持つことができ、また今回は口腔保健学科と看護学科の合同のセミナーだったので口腔保健の学生とも交流を持つことができました。フィンランドの医療について学ぶことができたことは私達にとって貴重な経験となりました。このプログラムをサポートして下さった先生方、そして関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



学遊抄

Ann Arbor 遊学記

心臓血管外科学分野 教授 北川 哲也

1996年5月から12月までの8カ月間を文部省在外研究員として、ミシガン大学胸部外科 Professor Bove の Division of Pediatric Cardiac Surgery に留学しました。

デトロイトの南西のはずれにあるメトロポリタン空港に降り立ち、I-94 Express Way を30分ほど西へ、そうしてUS.23を10分ほど北に走りますと Huron River 上流の Ann Arbor に着きます。西のシカゴに車で5時間、東のナイアガラにやはり5時間です。

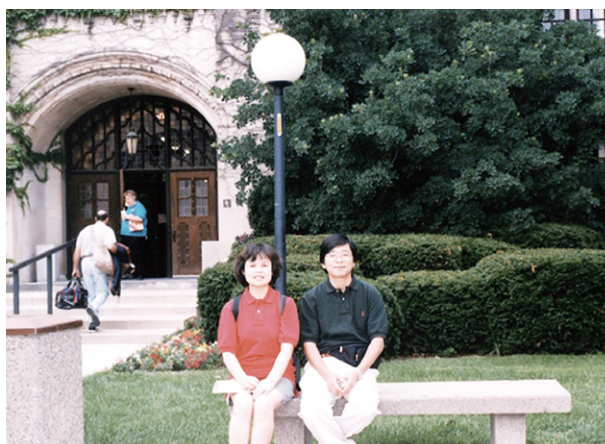
前任の加藤教授に留学を許可された1995年には、留学先を“世界のトップを走っている米国のどこにしようか”と興味ある Dr. の論文を読み漁り、米国への留学経験のある友達に相談しました。そして、魅力的な Dr. のいる留学候補地を5つほど選び、「科学者のための英文手紙の書き方」を読みながら、自分自身を売り込む手紙を書きました。幸運にも全ての相手先から「来て良いよ」との返事をいただきました。そのなかから

「Ann Arbor にしよう」と決めたのは、日本からの心臓血管外科医の留学者が誰もいなかったからです。トロントやボストン等の有名施設には東京女子医大心研や大阪大学心臓血管外科から、入れ替わり立ち代り多くの留学者が訪れていましたので、せっかくの機会なのだから異質なところを覗いてみたいという curious な好奇心と、Ann Arbor ならわたしが日本で身につけた strategy や technique と違ったものに触れ、短い留学期間に目的とする“仕事”ができるのではないかとという根拠のない自信からだったのでしょうか。

Ann Arbor 留学中にかむしゃらに最先端の技術、学問、知識を会得して来たわけではありませんが、のんびりして自分が支えられてきたものについていろいろ考えることができたのも人生のうちでは一つの勉強、仕事かもしれないと思っています。こんなことを書くと凡人の戯言と一流の人から笑われるかもしれませんが？



手洗い



central campus にて



鎌倉で

新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
H30. 10. 1	採用	浜田 大輔	地域運動器・スポーツ医学分野

退職者ご挨拶



約18年間務めた徳島大学教授を定年退職することになりました。1983年に病院医員に採用されてから36年間にわたり、医学部・病院でお世話になり心より御礼申し上げます。この間、多様な仕事をさせていただき光栄に思っています。

産科婦人科学分野では素晴らしい仲間恵まれ、教育、研究、診療に忙しくも有意義な時間を過ごすことができました。また、教授就任後は、医学部基礎・臨床研究棟の改修、また病院の西病棟と外来棟

産科婦人科学分野 教授 苛原 稔

の改築の基本設計を担当したのが思い出となっています。

2004年から副病院長、2011年に病院長、2013年から医学部長、大学院医歯薬学研究部長を務めさせていただき、運営管理の面でも活動させていただきました。退職後は専任の大学院医歯薬学研究部長として、医学部・病院の発展に少しでも貢献できればと思っています。これからも宜しく願います。



心臓血管外科学分野 教授 北川 哲也

平成31年3月31日をもちまして、徳島大学を退職いたします。昭和61年4月に医学部附属病院心臓血管外科が発足する時に国立循環器病センターから帰って以来、長い間お世話になりました。当初は“一人一人矻矻となおす”ことに無我夢中でしたが、恩師やチームとして共に働いていただいた多くの皆様のご支援をいただき、平成12年2月に医学部附属病院教授を拝命し、教室は平成15年に医学部講座、平

成16年に研究部分野となり、徳島県ならびに四国で必要とされる多くの心臓血管外科専門医を育てることができました。特に平成16年の初期臨床研修制度への転換から、“次世代外科医の育成”と臓器別再編に共に取り組んでいただいた外科教室各位には篤く御礼申し上げます。徳島大学医学部の今後益々のご発展を祈念して退職の挨拶とさせていただきます。



ストレス緩和ケア看護学分野 教授 雄西 智恵美

平成31年3月をもちまして、定年退職となりました。卒業した教育学部は改組となりましたが、16年前に徳島大学に帰ってきたときには、当時の建物がまだ残っており、ちょっとノスタルジックな気分になったことを覚えています。学部では成人・高齢者看護学、大学院ではがん看護学を担当しました。特に、平成19年から始まったがんプロ事業に関与することができ、徳島県内外にがん看護のプロフェッ

ショナルであるがん看護専門看護師を輩出する一役を担うことができました。未達成課題を抱えたままではありますが、無事に退職を迎えられましたのも皆様の温かいご支援、ご指導があつてのことと心より感謝申し上げます。今後の徳島大学および大学病院のますますの発展を祈念して、御礼のご挨拶とさせていただきます。



地域看護学分野 教授 岩本 里織

この度、平成31年3月をもちまして医歯薬学研究部看護学系地域看護学分野教授を辞して、神戸市看護大学教授に就任することとなりました。超高齢化が進む徳島県で、今そして今後の地域保健の在り方を考えさせられ、そこに貢献できる保健師を育成したいという思いで教育・研究をしまりました。

まだまだ後ろ髪をひかれる気持ちでいっぱいございます。2014年4月に着任し5年間という短い期間ではございましたが、教職員の皆さまにはいつも暖かくご支援をいただき感謝申し上げます。徳島大学の益々の発展を祈念しております。



医用画像解析学分野 教授 上野 淳二

平成31年3月末に医用画像解析学分野教授を定年退職致しました。昭和53年徳島大学医学部を卒業後、大学病院放射線科で2年間勤務し、徳島市民病院、高松市民病院及び聖路加国際病院を経て、昭和59年徳島大学に戻り、1年間の海外出張を含め以後35年間勤務しました。前半は放射線部に在籍し、国立大学初となるフィルムレスホスピタルへの移行や病院

再開発における中央診療棟への移転などを経験しました。平成14年医療短大の4年制移行に伴い保健学科へ異動し、学生時代を合わせ43年間徳島大学にお世話になりました。思い出に残る色々な経験をさせて頂いた徳島大学に感謝致します。今後も徳島大学が益々発展していくことを祈念致しております。



病理解析学分野 教授 香川 典子

徳島大学医学部医学科に入学して以来、学生として教職員としてお世話になりました。教員としては、昭和63年医療短期大学の発足と同時に講師として着任し、その後、医学部保健学科に改組され、31年を過ごしました。正直なところ、本学に入学した時は、教員になろうとは思っていませんでしたし、徳島で仕事を続けることになるとは想像していませんでした。定年を前にしてみると、徳島は私にとつ

での「都」となり、教員は「天職」となりました。また、様々な方のご支援、ご教示がなければ続けることができなかったことを思うと、改めて自分の置かれた立場が有難いものだったと感じています。お世話になった多くの方々にお礼を申し上げますとともに、徳島大学医学部の今後益々の発展を祈念しています。

1 数字で見る医学部

～平成31年3月卒業者の進路状況～

H31.3 現在

医 学 科	
進 路 先	合計
徳島大学病院	14
徳島県立中央病院	8
徳島県立三好病院	1
徳島市民病院	10
徳島赤十字病院	8
吉野川医療センター	4
一宮西病院	1
小牧市民病院	1
総合大雄会病院	1
豊田厚生病院	1
名古屋第二赤十字病院	1
筑波大学病院	1
NTT 西日本大阪病院 (2019年4月より大阪警察病院に合併)	1
大阪府済生会野江病院	1
岸和田市民病院	1
済生会千里病院	1
市立岸和田市民病院	1
枚方公済病院	1
りんくう総合医療センター	1
八尾徳洲会総合病院	2
岡山済生会総合病院	1
倉敷中央病院	1
中頭病院	1
豊見城中央病院	1
香川県立中央病院	1
鹿児島市立病院	1
横浜市立大附属市民総合医療センター	1
川崎市立多摩病院	2
関東労災病院	1
京都桂病院	1
京都医療センター	2
京都第一赤十字病院	1
前橋赤十字病院	1
高知赤十字病院	2
埼玉石心会病院	1
聖隷浜松病院	1
静岡県立総合病院	2
成田赤十字病院	1
都立松沢病院	1
大森赤十字病院	1
がん研有明病院	1
東大和病院	1
板橋中央総合病院	1
富山市民病院	1
糸魚川総合病院	1
JCHO 神戸中央病院	1
加古川医療センター	1
加古川中央市民病院	1
神鋼記念病院	1
川崎病院	1
北播磨総合医療センター	1
甲南病院	2
神戸大学医学部附属病院	3
宝塚市立病院	1
神戸医療センター	1
西神戸医療センター	1
姫路赤十字病院	1
兵庫県立尼崎総合医療センター	1
神戸掖済会病院	1
呉医療センター中国がんセンター	1
広島赤十字・原爆病院	1
済生会福岡総合病院	1
福岡青洲会病院	1
福岡市民病院	1
札幌東徳州会病院	1
小 計	112
未定	8
合 計	120

医 科 栄 養 学 科	
進 路 先	合計
医療法人 はやし会	1
長生堂製菓株式会社	1
アクサス株式会社	1
徳島県阿南市公務員	1
社会医療法人近森会 近森病院	1
スマイル調剤薬局	1
今治市役所	1
株式会社 大屋	1
高松赤十字病院	1
(一社)日本血液製剤機構	1
(株)EP 総合	1
アリアケジャパン株式会社	1
株式会社 ABC Cooking Studio	1
サンドラッググループ	1
(株)ANA ケータリングサービス	1
CJ ジャパン	1
味の素冷凍食品株式会社	1
サイトサポート・インスティテュート株式会社	1
日本酪農共同株式会社	1
津山市役所	1
今村総合病院	1
新日本科学 SMO	1
済生会滋賀県病院	1
ヨシケイ開発株式会社	1
伊那食品工業株式会社	1
独立行政法人神戸市民病院機構	1
医療法人社団 甲友会 西宮協立脳神経外科病院	1
築野食品工業株式会社	1
株式会社 北洋本多フーズ	1
タカキベーカーリー	1
小 計	30
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	16
東京大学大学院農学生命科学研究科	1
小 計	17
未定	1
合 計	48

保 健 学 科 : 看 護 学 専 攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	22
徳島県病院局	1
鳴門市保健センター	1
石井町役場 保健センター	1
徳島県職員	2
藍住町職員	1
徳島銀行	1
高知市役所	1
香川大学医学部附属病院	1
岡山市職員	2
広島大学病院	1
広島県教育委員会	1
山口大学医学部附属病院	1
神戸市民病院機構	3
神戸大学医学部附属病院	7
兵庫県立こども病院	1
兵庫県立西宮病院	1
洲本市職員	1
和歌山県立医科大学附属病院	1
大阪医科大学附属病院	1
大阪市立大学医学部附属病院	2
大阪大学医学部附属病院	1
大阪府職員	1

関西医科大学付属病院	2
関西労災病院	1
京都市職員	1
福岡市立こども病院	1
千葉大学医学部附属病院	1
聖路加国際病院	1
武蔵野赤十字病院	1
小 計	63
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院	9
島根県立大学 別科助産学専攻	1
小 計	10
未定	5
合 計	78

保 健 学 科 : 放 射 線 技 術 科 学 専 攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	2
徳島赤十字病院	1
きたじま田岡病院	1
鳴門病院	1
高知大学医学部附属病院	1
松山赤十字病院	1
済生会今治病院	1
愛媛県職員	2
倉敷中央病院	1
脳神経センター 大田記念病院	1
のぞみ整形外科クリニック	1
周東総合病院	1
島根県立中央病院	1
公立邑南病院	1
日本赤十字社和歌山医療センター	1
神戸市民病院機構	1
神戸大学医学部附属病院	1
国立病院機構近畿グループ	1
京都府立医科大学附属病院	1
JA 三重厚生連	1
湘南藤沢徳洲会病院	1
平成横浜病院	1
同仁病院	1
小 計	25
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院	10
京都大学大学院	1
小 計	11
未定	3
合 計	39

保 健 学 科 : 検 査 技 術 科 学 専 攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	2
田岡病院	1
川島病院	2
徳島県職員	1
JA 高知病院	1
庄原赤十字病院	1
神戸市民機構	1
大津赤十字病院	1
小 計	10
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院	4
東京都がん健診センター細胞検査士養成所	1
小 計	5
未定	2
合 計	17

白衣授与・Student Doctor 認定証授与式

医療教育学分野 教授 赤池 雅史



平成31年1月7日、大塚講堂にて、保護者の皆様のご列席のもと、医学科4年生108名を対象に、白衣授与・Student Doctor 認定証授与式が行われました。第一部では丹黒章医学部長、永廣信治病院長、櫻井えつ青藍会会長からのご挨拶と小丸貴生さんの学生代表宣誓の後、学生ひとりずつに徳島大学病院のエンブレムが肩に刺繍された白衣と全国医学部長病院長会議発行のStudent Doctor 認定証が授与されました。第二部ではキャリア形成教育として、森岡久尚先生（岐阜県健康福祉部長）と丹黒章先生（徳島大学医学部長、大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野教授）のご講演が行われました。

教養～基礎医学～臨床医学教育およびスキルスラボでの基本的診療技能教育を修了し、共用試験医学系CBT（コンピュータを用いて知識を客観的に評価する試験）とOSCE（シミュレーションによる客観的臨床能力試験）に合格した医学生は、Student Doctor として、4年次1月から、45週間の学内実習、8週間の学外実習、12週間の学内外での選択実習で構成される合計65週間のクリニカル・クラークシップ（診療参加型臨床実習）を履修します。診療参加型臨床実習では、学生は診療チームの一員として能力に見合う役割を持ち、指導医の下で適切な教育ステップを踏みながら、診療チームの周辺から中心的存在へと徐々に成長していきます（正統的周辺参加）。最後になりましたが、この度、学生に授与された白衣は青藍会からのご寄贈によるもので、先輩の諸先生方からの白衣授与は正統的周辺参加の象徴であり、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



◆◆ 受賞者紹介 ◆◆

平成30年度岡奨学賞

中 本 真理子（実践栄養学分野 助教）
 「大豆製品および大豆含有成分摂取の健康寄与効果を探る疫学的検討」
 丸 橋 拓 海（免疫制御学分野 特任助教）
 「免疫チェックポイント分子LAG-3による免疫抑制機構の解明」
 ※医学部および先端酵素学研究所において、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

第42回徳島医学会賞

曾我部 正 弘（地域総合医療学分野 特任講師）
 「医工・病学・多職種連携による胸腹水濾過濃縮専用装置の研究開発」
 鶴 尾 美 穂（徳島市医師会）
 「糖尿病患者の在宅ケア向上をめざした徳島市糖尿病サポーター(TCDS)育成の試み」
 ※第258回徳島医学会学術集会（平成31年2月3日）において受賞者が選考されました。

第21回若手奨励賞

志 村 拓 哉（徳島大学病院卒後臨床研修センター）
 「骨髄増殖性疾患に続発した慢性血栓性肺高血圧症の一例」
 竹 内 竣 亮（徳島大学病院卒後臨床研修センター）
 「Small for gestational age 児の成長および神経学的発達の予後」
 松 田 宙 也（徳島大学病院卒後臨床研修センター）
 「症状発現から診断までに半年を要した ACTH 単独欠損症の一例」
 ※第258回徳島医学会学術集会（平成31年2月3日）において受賞者が選考されました。

医学部ベストティーチャー・オブ・ザ・イヤー2018

医 学 科	医科栄養学科
駒 貴 明 （微生物病原学分野 助教）	鈴木 佳子 （疾患治療栄養学分野 助教）
西 田 憲 生 （病態生理学分野 准教授）	保健学科
堀ノ内 裕 也 （薬理学分野 助教）	阪 間 稔 （放射線理工学分野 教授）

※学生の投票に基づき選考される賞です。

医学部医学科ベストティーチャー・オブ・ザ・イヤー・イン・クリニカル・クラークシップ2018

医 学 科

上 野 義 豊（病院救急集中治療部 助教）
川 西 良 典（病院手術部 助教）
北 市 隆（心臓血管外科学分野 准教授）
四 宮 加 容（眼科学分野 講師）
長 井 幸 二 郎（病院検査部 講師）
山 崎 裕 行（病院形成外科・美容外科 医員）
吉 田 加 奈 子（病院産科婦人科 助教）

※学生の投票に基づき選考される賞です。

平成30年度医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞	栄養学優秀教育賞	保健学優秀教育賞	※医学科、医科栄養学科、保健学科の教育および学生指導に貢献した人を表彰する賞です。
阿 部 晃 治 （耳鼻咽喉科学分野 准教授）	中 尾 玲 子 （生体栄養学分野 講師）	板 東 孝 枝 （臨床腫瘍医療学分野 助教）	

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

平成30年度 中田賞



第65回医学科卒業生(平成31年3月卒業)
貴志 亮太

この度は、中田賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。6年間温かくご指導して下さった先生方をはじめ、共に支えてくれた家族や友人たちのおかげで非常に充実した大学生活を送ることができました。今後もこの受賞を励みとし、医師として医療に貢献できるよう、日々精進してまいりたいと思います。6年間、本当にありがとうございました。

平成30年度 児玉賞



第2回医科栄養学科卒業生(平成31年3月卒業)
大石 琴乃

この度は、児玉賞という名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。ご指導くださいました先生方をはじめ、先輩方、友人、職員の皆様そして家族のおかげで、学びの多い素敵な環境の中、有意義な大学生活を送ることができました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。今後も支えてくださる方々、恵まれた環境で学べることへの感謝の気持ちを忘れず、この賞に恥じることはないよう、日々精進して参ります。

平成30年度 看護学専攻賞



第14回看護学専攻卒業生(平成31年3月卒業)
加藤 奈那

この度は、名誉ある看護学専攻賞をいただき大変光栄に思います。この賞をいただけたのは、熱心にご指導くださいました先生方をはじめ、互いに努力し合った友人、温かく見守ってくれた家族の支えがあったおかげです。心より感謝しております。周りの方の支えがあったからこそ、様々な経験を積むことができ、成長できた4年間でした。今後も大学4年間での学びや出会いを大切に、日々精進してまいります。

平成30年度 放射線技術科学専攻賞



第14回放射線技術科学専攻卒業生(平成31年3月卒業)
下村 泰生

この度は、平成最後の放射線技術科学専攻賞をいただき大変光栄に存じます。歴代受賞者の末席に名を連ねさせていただくことは大変恐縮であり、気の引き締まる思いです。この賞をいただくことができたのは、4年間で共にした同期生、ご指導いただいた先生方や先輩方、大学職員の方々、そして実生活でお世話になった方々や家族のおかげだと考えております。今回の受賞を糧に、今後も感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献する人材になりたいと思います。

平成30年度 検査技術科学専攻賞



第14回検査技術科学専攻卒業生(平成31年3月卒業)
漆原 南実

この度は、名誉ある検査技術科学専攻賞をいただき大変光栄に思います。今まで熱心にご指導いただいた先生方、苦楽を共にした友人、支えてくれた家族のおかげで充実した学生生活を送ることができました。心より感謝しております。学生生活では様々な経験を積むことができ、成長することができた4年間でした。今後もこの賞を励みとし、徳島大学の卒業生として社会で活躍できるよう、日々精進してまいりたいと思います。

平成30年度 医学部優秀学生賞

【学生】

医科学教育部博士課程3年次：土岐 俊一
医科学教育部博士課程2年次：鳥居 裕太
栄養生命科学教育部博士前期課程2年次：福島 志帆
栄養生命科学教育部博士前期課程2年次：林 眞由
保健学科看護学専攻4年次：横田 真梨菜
保健学科看護学専攻4年次：三井 瑞穂
保健学科看護学専攻4年次：高田 真奈
保健学科検査技術科学専攻4年次：六車 京香

【学生団体】

保健学科看護学専攻：街をきれいにするボランティア(代表：池原さくら 外1名)

※各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。
※年次は選考時のものです。



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。
(平成26年3月26日)

●認定評価機関
独立行政法人大学評価・学位授与機構

●認証期間 7年間
(平成26年4月1日～平成33年3月31日)

編集後記



医学部だより第38号にあたり、ご尽力くださった皆様に感謝いたします。医療に携わる人々は、自分の存在意義・意味について考えたことが一度はあるのではないのでしょうか？マズローは人間の欲求について、生理的欲求、安全の欲求、社会的欲求、承認の欲求、自己実現欲求の5段階があると述べています。しかし、晩年には、さらにその上の自己超越の欲求を表明しています。自我を超えた、人としての存在の意味を見出し、その意味のために生きていくと解釈しました。医療は人間の健康に関与し、それぞれの人の生き方に影響を及ぼします。であるからこそ、医療人はより高い段階の欲求を求められるのではないかと考えます。皆様は、自己自身が何を欲し、何を目指して存在しているのか明確になっていますか？

(医学部広報委員会 副委員長 岸田 佐智)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
広報委員 常山幸一(委員長)、勢井宏義、高山哲治、廣瀬 隼、濱田康弘、岸田佐智、米崎正則、久保萌加、曲田吉美、三橋 英

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係)E-mail: isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp までお願いします。
なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9116 Fax: 088-633-9028 URL <http://www.tokushima-u.ac.jp/med/>